

わんちゃん・ねこちゃん、ペット防災への備えは？
大正製薬『わんちゃん・ねこちゃん、飼い主さんの防災意識調査』

監修：NPO 法人ペット防災サポート協会※ 理事長 三浦 律子さん

9 月 7 日は「ペット防災の日」※。また、9 月 6 日から 12 日は「ペット防災週間」※です。

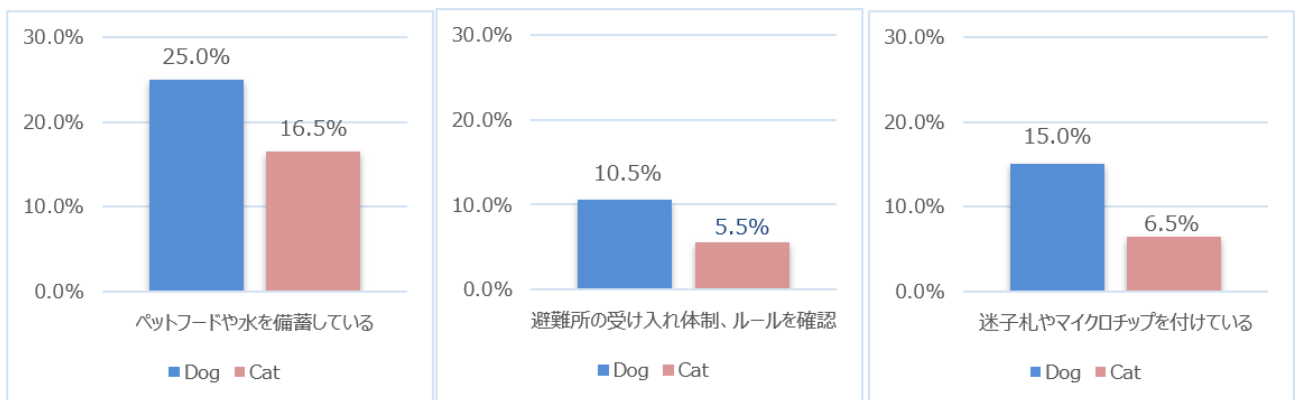
大正製薬は、全国の犬・猫の飼い主さん各 200 人を対象に、ペットの災害対策に関する『わんちゃん・ねこちゃん、飼い主さんの防災意識調査』を実施しました。今回は、ペットの種別（わんちゃん・ねこちゃん）および飼い主さんの年代別（20-30 代、40 代、50 代、60 代）による防災意識の違いを探ってみました。この機会に災害時に人間とペットの命を守るため、日頃からの備えや避難方法を確認してみてもいいかもしれません。

※NPO 法人ペット防災サポート協会制定

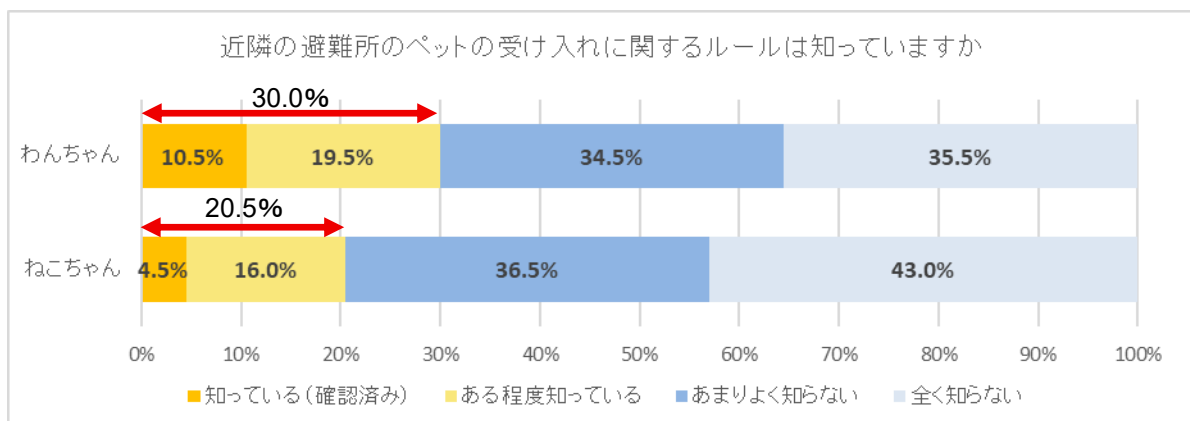
○ねこちゃんの飼い主さん、防災への取り組みは難しい？

「防災対策として、すでに行っていること」を尋ねました。その結果、「ペットフードや水を備蓄している」がわんちゃん 25.0%、ねこちゃん 16.5%でした。また、「避難所の受け入れ体制を確認」「迷子札やマイクロチップを付けている」の各項目でもわんちゃんの飼い主さんが上回る結果に。わんちゃんとは異なり、室内で過ごすことの多いねこちゃんの備えに、多くの飼い主さんが悩んでいることがわかりました。

わんちゃん・ねこちゃんの防災対策としてあなた（飼い主さん）がすでに行っていることを教えてください



「近隣の避難所のペットの受け入れに関するルールは知っていますか」の問いでは、「知っている」「ある程度知っている」の合計は、わんちゃんの飼い主さんが 30.0%であったのに対し、ねこちゃんの飼い主さんは 20.5%。ねこちゃんは個体差もありますが、ストレスから病気になりやすい子もいるため、避難所に行く選択肢が少ないように感じる結果となりました。



○「避難時のトイレ」は人もペットも大変！

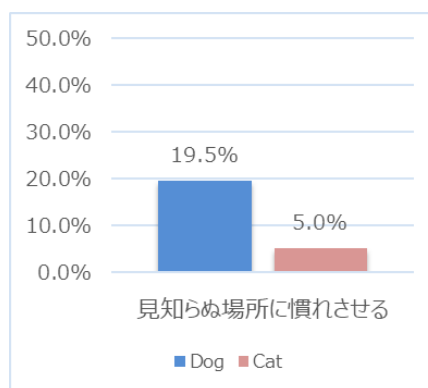
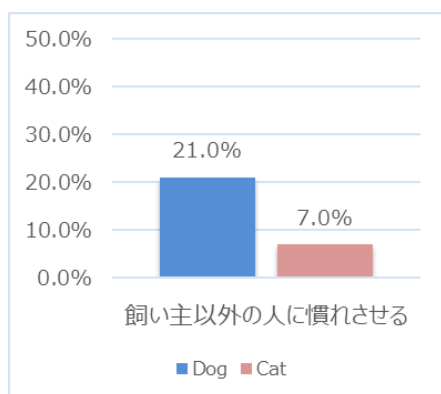
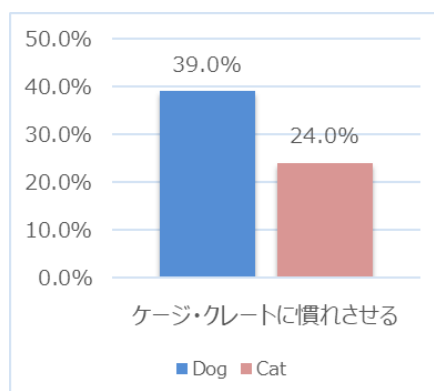
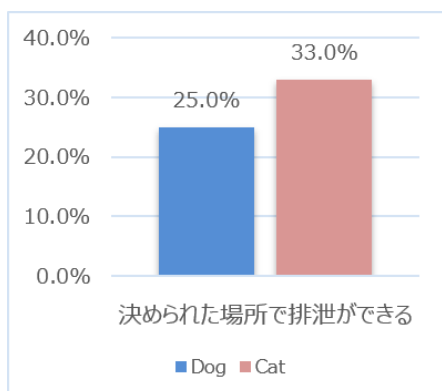
避難所で周囲に迷惑をかけることなく、円満に過ごすために欠かせないのが、日頃からのしつけです。「避難時等に備えて、わんちゃん・ねこちゃんにしているしつけを教えてください」について尋ねました。

「決められた場所で排泄ができる」の項目では、ねこちゃんは決まった場所で排泄する習性があるためか、わんちゃん 25.0%、ねこちゃん 33.0%となりました。避難所でのトイレは、人もペットも混乱するので、しつけや準備をしっかりとしておきましょう。ペットシートは人のトイレにも使えます。

「ケージ・クレートに慣れさせる」を行っているのは、わんちゃんの飼い主さんが 39.0%。これに対しねこちゃんの飼い主さんは 24.0%。ねこちゃんも避難所ではケージやクレートでの生活になるのでしっかりと準備しましょう。

「飼い主以外の人に慣れさせる」では、わんちゃんが 3 倍、「見知らぬ場所に慣れさせる」でも 4 倍近く差があり、ふだん家から外に出る機会の少ないねこちゃんに比べ、わんちゃんの方が高い傾向が見られます。ねこちゃんも是非、ハーネスを付ける練習や飼い主さんと散歩するなどのチャレンジをしてみてもいいのでは？

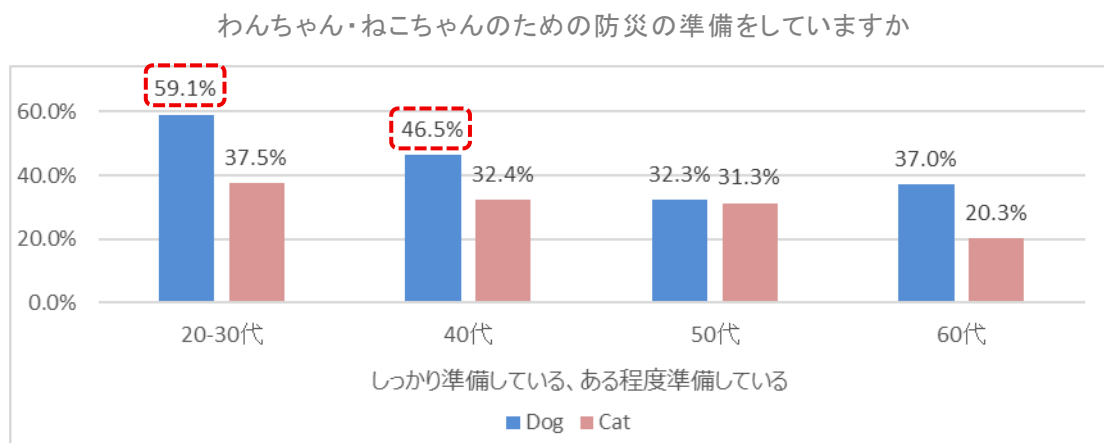
避難時等に備えて、わんちゃん・ねこちゃんにしているしつけを教えてください



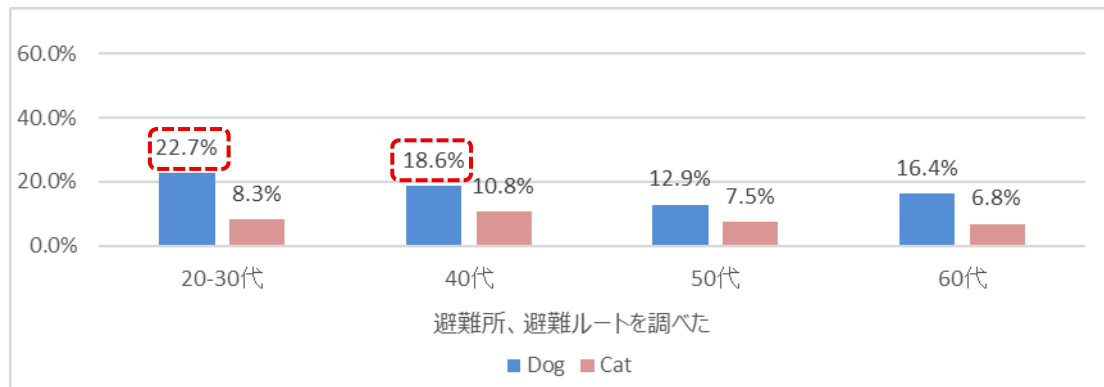
○防災準備に最も積極的なのは 20-40 代のわんちゃんの飼い主さん

次に飼い主さんの年代別では、防災対策の取り組みにばらつきがあることが分かりました。

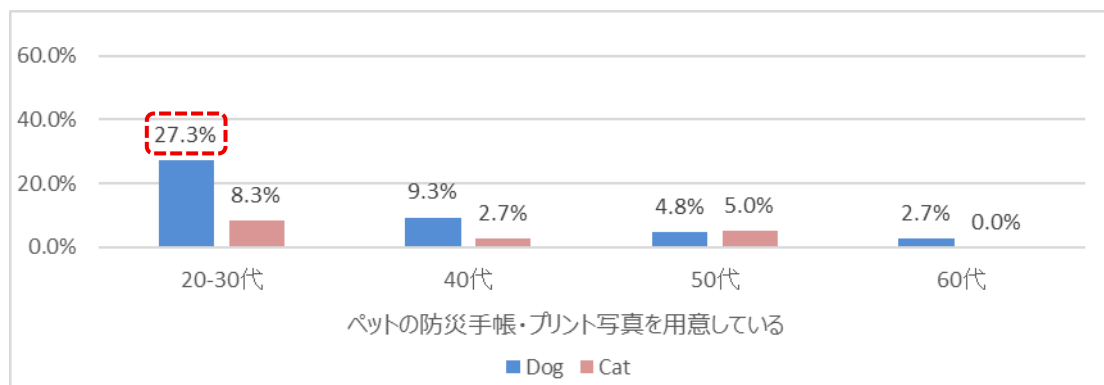
「わんちゃん・ねこちゃんのための防災の準備をしていますか」の質問に対し、「しっかり準備している」「ある程度準備している」の合計回答は、わんちゃんの飼い主さんの 20-30 代が 59.1%、40 代が 46.5%で、他の年代やねこちゃんの飼い主さんを上回っています。若い世代の方に比べて、年齢が高くなると情報を集めにくくなる現状があるかもしれません。ご近所に目を向けて、地域で一緒に助かることも考えていきましょう。

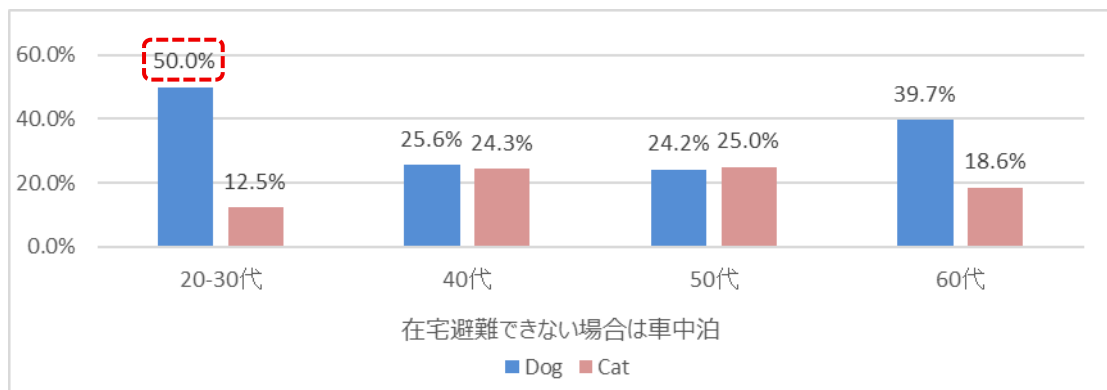


「避難所、避難ルートを調べた」というわんちゃんの飼い主さんは 20-30 代が 22.7%、40 代が 18.6%となっています。しかし全般的に数値は低く、具体的に避難することをまだ考えていない方も多いことが分かります。



また、20-30 代のわんちゃんの飼い主さんは、迷子に備えて「ペット防災手帖・プリント写真を用意している」が 27.3%。「自宅で生活（在宅避難）ができない場合、避難中の飼育環境をどう考えていますか」の質問には半数が「車中泊」と回答。災害への備えや情報収集に対する意識の高さがうかがえる結果となりました。

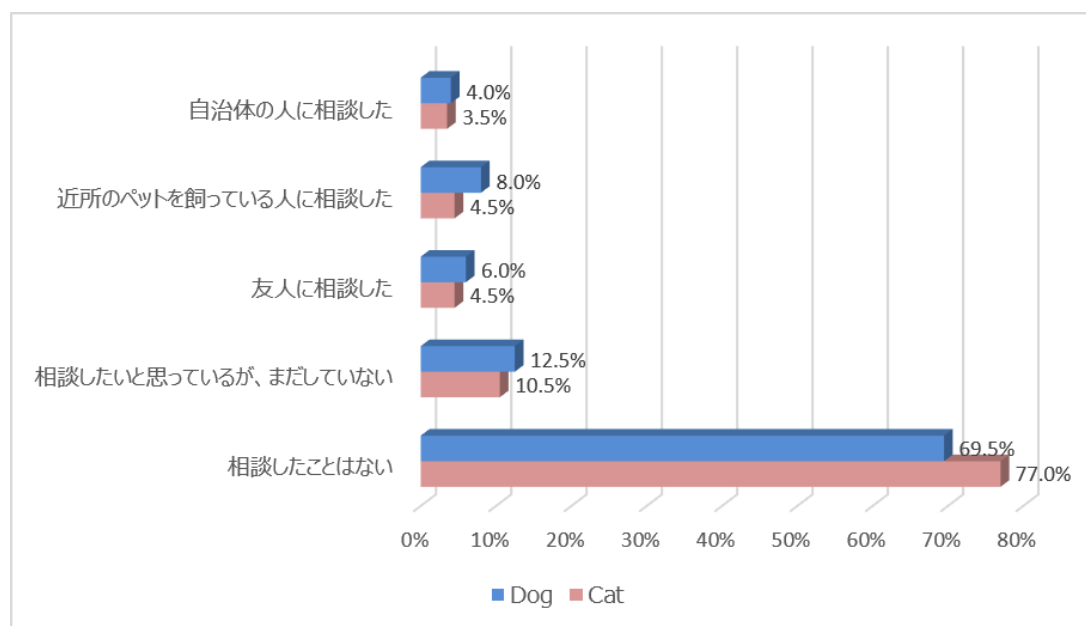




○自治体や友人・近所の人とのコミュニケーションは積極的に！

災害時に大切な地域の自治体やご近所とのコミュニケーション。そこで、「防災対策について、地域の自治体や友人・近所の人と相談したことはありますか」を聞きました。しかし、「自治体の人に相談した」「近所のペットを飼っている人に相談した」の回答は、わんちゃん・ねこちゃんの飼い主さんとも1割以下に。逆に「相談したことはない」がわんちゃんの飼い主さんで69.5%、ねこちゃんの飼い主さんで77.0%を占め、地域との連携は今後の課題といえそうです。ぜひ、避難訓練などの防災イベントがあれば参加してみましょう。

防災対策について、地域の自治体や友人・近所の人と相談したことはありますか



【『わんちゃん・ねこちゃん、飼い主さんの防災意識調査』調査概要】

調査地域：全国

調査期間：2025年12月

調査方法：インターネットでのアンケート調査

調査対象：24-69歳までの飼い主さん400名（わんちゃん200名、ねこちゃん200名）

	20-30代	40代	50代	60代
わんちゃん	22	43	62	73
ねこちゃん	24	37	80	59

有効回答：400名

調査会社：株式会社クロス・マーケティング

※本調査の構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合があります

備えておきたい！ わんちゃん・ねこちゃんの防災対策

監修：NPO 法人ペット防災サポート協会 理事長 三浦 律子さん

いつ起こるかわからない災害。いざというとき、人とペットが安全に避難して、安心して共同生活を送るにはどうすればよいのか。ペットの防災準備について NPO 法人ペット防災サポート協会 (<https://www.petbousai.com>) 理事長の三浦律子さんにお聞きしました。

非常時にも役立つしつけを

周囲への配慮から車中泊を選ぶ方もいますが、長期間となると負担は並大抵ではありません。避難所生活でも、周りに迷惑をかけることのないよう、「お座り」「待て」といった基本的なしつけはもちろん、キャリーケースに抵抗なく入れるよう慣らしておく、無駄吠えをしないようにする、決められた場所で排泄できるようにしておく、家族以外の人との触れあいにも慣れておく、自宅や避難所以外にも預けられる先や一緒に避難できる先を日頃から決めておくといった準備が大切です。

驚いて逃げ出すことがあります

地震の大きな揺れに驚いてパニックを起こしたわんちゃん・ねこちゃんが、行方不明になるケースはこれまで多々みられました。

普段から可能な限り室内で飼育し、万が一はぐれてしまったときに備えて、ペットの身元が分かるように鑑札、狂犬病予防注射済票、迷子札、マイクロチップといったツールは必ず装着するようにしましょう。飼い主さんと一緒に写った写真の準備も、迷子の搜索の有効な手がかりになります。



避難所での飼い対策にご用心

避難所生活では、動物が苦手な方やペットアレルギーの方もいるため、周囲への配慮が欠かせません。特に気を付けたいのがにおい。猫砂やペットシートはこまめに交換し、排泄物は防臭専用ゴミ袋や、においのもれない密閉ゴミ袋の持参、体のふき取りシートやペット用のおむつもおすすめです。さらに腸内フローラ（腸内細菌叢）を整えると、排泄物のにおいが軽減することが知られていますので、日頃から愛犬・愛猫のおなかの健康維持にも気を配っておくことも大切です。抜け毛対策には、こまめなブラッシングや抜け毛飛散防止用ウェアも利用しましょう。

避難生活のストレスからおなかの不調に

慣れない避難所での生活は、わんちゃん・ねこちゃんにも大きなストレスとなり、おなかの健康維持が気にかかる場合があります。災害時には動物病院に行けないケースもあるため、常備薬や乳酸菌サプリメントを準備しておくのもおすすめです。また、食べなれたペットフードや食べやすいウェットフード、ペット用の飲料水も必ず用意しておきましょう。



ペット防災については、前々からねこちゃんの飼い主さんから「ねこの防災に対して情報が少なく、どのように備えていいかわからない」といった声が多く聞かれます。

今後はねこちゃんも可能であれば、ハーネスを付ける練習やケージなどが安全な場所だと理解できる工夫を。スリングに入れて飼い主さんと散歩をしてみる、避難訓練などの防災イベントにケージなどを持っていくなど、ねこちゃんそれぞれの性格に合わせた練習を飼い主さんが進めてみてください。

災害時は避難などで環境が大きく変わります。だからこそ、日ごろからおなかの健康維持はしておきたいものです。

「わんビオフェルミン S」「にゃんビオフェルミン S」は、ビフィズス菌と乳酸菌が生きたまま腸に届き、毎日のおなかの健康維持に役立ちます。プレーン味のふりかけタイプで、手軽にいつもの食事へ取り入れていただけます。

もしものときに備え、普段から継続して愛犬・愛猫のおなかの健康を維持しておきましょう。



製品名: わんビオフェルミン S
製品区分: 犬用健康補助食品
希望小売価格: 40g 3,300 円、
25g 2,090 円
(消費税込)
公式 HP: [わんビオフェルミン S](#)



製品名: にゃんビオフェルミン S
製品区分: 猫用健康補助食品
希望小売価格: 40g 3,300 円、
25g 2,090 円
(消費税込)
公式 HP: [にゃんビオフェルミン S](#)

※当社から、NPO 法人ペット防災サポート協会 理事長 三浦 律子さんに依頼し、いただいたコメントを編集して掲載しています。

※関連リリース: [『わんちゃん・ねこちゃん、もしものときの意識調査』](#) (2026 年 2 月 12 日)

リリースに関するお問い合わせ先

大正製薬株式会社 メディア推進部 梶田・田中
TEL: 03-6382-7304/ h-kajita@taisho.co.jp / shuj-tanaka@taisho.co.jp
株式会社ユナイトパブリックリレーションズ 宇藤・菊地
TEL: 03-3504-8661/ sugunite@unitepr.info